

同和問題（道徳）学習指導案

3年A組 男子19名 女子18名 計37名

指導者 佐野 富子

1 主 題 誇りうる生き方を求めて

2 主題設定の理由

昨年より部落問題学習を学級という狭い枠をこえ、学年全体で取り組んでいく中で、生徒たちは互いに尊重していくことのすばらしさを学んだ。そしてこの学習は、人間として本当に語り合える仲間、議論しあえる仲間をつくることであるとともに、自分自身の醜い差別心を洗い、差別に立ち向かおうとする生き方をつかむ闘いでもあった。

さて、本学級は、表面的には清掃や奉仕活動など協力的で仲良くなごやかな集団であるため、何ら問題がないように見える。しかし、目の前に控えた進路のこと、社会にある不合理な差別、友人、家族のことで様々な不安や悩みを抱えている生徒もいる。そんな中、A子がこんな思いを書いてきた。「私は誰に教えられたわけでもないのに、部落に生まれたことを恥ずかしいことだと思っています。学習会の通知も、友だちがみても中味なんてわからないのに、机の中にすぐ押し込んでしまいます。」A子は昨年からひき続き担任をしている生徒である。素直で快活なため、私は、A子の心の奥に潜む差別の重さがみえていなかった。一学期、丸岡忠雄さんの講演記録「同和教育への希い」の学習を通して、A子そしてクラスの生徒たちは、自分のおかれた苛酷な社会的立場から逃げることなく自ら解放しようとした丸岡さんの生き方に触れ、仲間の支えが丸岡さんを変えていくエネルギーとなったことに共感した。そして、自分たちは人間としてどのように生きていったらいいのかを追求していった。授業でのB男の発言がみんなの心を揺さぶる。「ぼくは学習会にいます。このクラスだから言えたんです。ぼくたちは信頼しあえる仲間になろうとしています。だから、学習会の通知もみんなの前で渡してほしい。」そして、涙ながらにC子が応える。「友だちの苦しい思いを聞いて、それに応えられる人間かどうか自信がない。そんな自分が情けなくてたまらない。」丸岡さんのそして友の心の叫びを聞き、A子が徐々にかわりはじめた。学習会に参加し、「私にとって部落出身というのは大きな大きな峠です。登りきれないかもしれない。途中で休んでしまうかもしれない。でも私は負けない。峠を登りきって、胸はって自分のふるさとを言いたい。」と書いている。生徒たちは精一杯生きている。そんな生徒たちのより人間らしく生きようとする願いに、一人の人間として応えていきたい。

「人の世に熱あれ人間に光あれ」と叫んだ本資料「水平社宣言」、苦しい差別の中を生き抜いてきたからこそ、そして人々の心の痛みを知っていたからこそ、すべての人々の上に、人間の尊厳が光や熱のように輝かしくよみがえれと願ったこのすばらしい生き方を、じっくりと読み味わってきたい。そして今一度「人間は尊敬されるべきである」という考えをみつめ直し、「誇りうる人間

とは何か」を自分のものとしてつかませ、差別解消に立ち向かっていく意欲と実践力を求めて本主題を設定した。

3 ねらい

厳しい差別にも屈せず、すべての人間の解放を高らかにうたいあげた人間としての誇りうる生き方に共感させ、自分自身を厳しくみつめ問いかけるところから、差別解消に立ち上がる意欲と実践力を育てる。

4 視 点 人権と差別

5 指導計画

- (1) 常時指導 あゆみ、一分間スピーチを通して、自分の生活をみつめる機会を持たせている。
- (2) 関連的指導（道徳）「ああ飛驒がみえる」
しいたげられた人々のひたむきな生き方を通して、自分の生活を見つめなおすと同時に、差別社会の構造に気づかせる。
- (3) 核心的指導 第一次 「水平社宣言讃歌」……………2時間
第二次 「水平社宣言」……………4時間（本時3／4）
- (4) 発展としての関連指導（特活）「すばらしい生き方に学ぶ」…1時間
人間としてすばらしい生き方とはどんな生き方なのかを考え、家庭同和教育のリーダーになる実践力を育てる。
- (5) 常時指導（発展）何でも語り合い、支え合う仲間意識を高める。

6 本時の指導

(1) 目 標

人間として誇りうる生きかたとは何かということについて考えさせ、自分自身をみつめ、すすんで差別解消に立ち上がる意欲と実践力を育てる。

(2) 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 「水平社宣言」を読み、感動したところを話し合う。	○ 感動し、心うたれたことばを出させ、どんな思いが伝わってきたかを話し合わせる。
2 「水平社宣言」が私たちに語りかけていることは何かを話し合う。	○ 水平社宣言のすばらしさは部落の解放のみならず、すべての人間の解放をめざしていることに気づかせる。
3 これからの自分の生き方を考える。	○ 自分が誇りうる人間になるためには、どう生きていけばよいかを考えさせる。

3年A組 授業記録

T₁ みんなと一緒に「水平社宣言」の一字一文字にこめられている思いを学習してきました。今までの資料と違って、この資料は大変むづかしく理解しにくいところもあったと思います。でもその中で、みんなが心うたれたところ、胸にせまってきたところ、ガーンと響いたところいろいろあると思います。それはどこですか。その理由も発表して下さい。



JK(男) 心に残ったところは、「吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり実行者であった」というところで、自分たちがどれだけ差別をうけても自分より下のものをつくろうとせず、平等を求めて、それを実行してきたというのがすごいと思います。

TN(男)「吾々は、心から人生の熱と光を願求礼讃するものである。」というところが心に残りました。嘲笑の唾まで吐きかけられていたのに、すべての人々の幸せやすべての人が差別を受けないように願っており、本当の人間というのは、お互い尊敬しあうものだという思いがしました。

TK(女) 私が一番心に残ったのは、「温かい人間の心臓を引き裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪いは夜の悪夢のうちにも、なほ誇りうる人間の血は涸れずにあった。」で人間は、差別されるものでもなく、差別していくものでもないと思います。そして嘲笑のつばをはきかけられても、自分たちは人間なんだと訴えたのは、すばらしいと思います。

AE(女)「なほ、誇りうる人間の血は涸れずにあった。」のところですか。その前の文章から人間外の人間として扱われていたというのが感じられて、何かこんなん本当にされとったんかと思って少し怖かったです。やっぱし、私だったらここまでひどい扱いされてまで仕事したくないし、ほんなんいやけん自分がやったらいいでーと思うし、その仕事をしていかなんたら生きていけないのなら、自ら生命を絶つと思います。でも、そこまで迫害を受けて生命を絶たなかった、この人たちは、それだけ生命を大切にしてきたんだと思うし、自分たちも同じ人間だという思い、誇りをすててなかったのだからすばらしいなーと感じました。誇りうる人間の血というのは、差別をされても、自分たちは、絶対に差別はしなかったのだという誇らしい血という意味だと思います。

TN(男)「此際吾等の中より人間を尊敬する事によって自ら解放せんとする者の集団運動は起せるは、寧ろ必然である。」で、今までぼくら3年生は、学年全体で、体育館で、同和問題学習をしてきました。それは、みんな一人一人がお互いに尊敬しあって、助け合う中で、より深く考えることができた

し、そういうことから、この宣言文と通じるものがあると思います。

KK(男)「吾々がエタであることを誇り得る時が来たのだ。」でこの文のとおり、必死で差別に立ちむかっていたりっぱな祖先の血を受け継いでいるのだから、誇りをもって、差別から逃げなくてもいいんだということを僕に教えてくれた。

SS(男)「水平社は、かくして生まれた。人の世に熱あれ、人間に光あれ。」自分たちだけの幸せだけでなく、全国の人々のこともいっているのがすごいと思いました。それに差別にすごく苦しめられてきたのにまわりの人たちのことを考えるのは、すごく差別の苦しさをわかっているからこんなことが言えるのだと思いました。

TS(女)「吾々がエタである事を誇り得る時が来たのだ。」というところが心にのこりました。私は自分がいじめられた時、自分よりもっといじめられている人を見て安心していました。そうしないとやっていけないくらい気持ちになります。でも部落の人は、自分たちより下をつくらなかったという生き方は本当に誇ることでできる生き方なんだと思うんです。それから讃歌の方で「おきてみる夜明けだ」ということばが印象的で、今私たちがその夜明けをつくっていかなければならないんだと強く思いました。

T₂ みんなに、水平社宣言の感想を発表してもらったんだけど、この宣言の柱は三つあると思うんです。黒板の方をみて下さい。一つは、同情融和の否定、二つは人間の尊厳、三つめは団結ですね。それじゃ、この宣言は、いったい私たちに何を教えてくれたんだろうか。先生にとっては、学習会の通知をコソコソ渡したり、部落に生まれた子はかわいそうな子だからいたわってあげなんだらあかんと思ったりすることは、いっこも人間を尊敬しとらん、自分が平気で踏みつけておいて、それで、気の毒な子だなんて思っている；人間の尊厳がまったくわかっていなかったんよ。それじゃ、みんなはどうですか。水平社宣言が今の自分に教えてくれたものは何だったんだろうか。発表して下さい。

YH(女) 私は、お父さんの言うこと「部落の人は悪い人ばかりだとか、つきあったらあかん。」とか聞いて、前はそれにうなずいていたんだけど、これを勉強してから、お父さんと同和問題の話をしたりして、おかしい所はおかしいと言えるようになりました。でも、まだまだお父さんに言い負かされてしまうので、もっともっと勉強したいです。

HK(女) 私も、この前、家でおばあちゃんがお母さんに地区の悪口をいっているのをみて、それは間違っていると言おうと思ったけど言えなかったです。でも、そういうことが悪いことだとわかるようになったのは、この宣言を勉強したからだと思います。

T₃ それじゃ、HKさん、おばあちゃんに言えるためには、何がいると思う。

HK(女) 絶対に差別は許さないんだと思う強い心と地区であるとかないとかでなしに同じ人間なんだということだと思います。

MM(女) 私の知り合いは部落のことを差別的な目でみていてそれを私に言います。それを聞いて私は何も言えなかったです。その時私は、言えない自分がもうなさけなくて惨めでたまりませんでした。でも、この勉強をして、その子と話す機会があったんだけど私はその人にきちんと言えました。この宣言を勉強して勇気が湧いてきました。大きな勇気を私に与えてくれました。

MI(男) ぼくは、前まで、こんな勉強どうでもええわーと思っていたけど水平社宣言を勉強して、一人では差別解消はできないかもしれないけど、みんなの力、団結したら必ずできるんだ自信みたいなものが湧いてきました。

SY(男) 水平社宣言は、人間は尊敬すべきだということを教えてくれました。尊敬していけば信頼しあえるし、信頼の中から団結が生まれてくると思う。それと僕の家でもおじいちゃんおばあちゃんが部落の人を差別しているのをききました。ぼくが何か言おうとしたら、お父さんお母さんがそんなふうに教えられてきたんだから仕方がないといわれて、黙ってしまいました。でもこの問題はしょうがないではすまされんと思うので、今度は、はっきり話し合おうと思います。

T4 今、みんなは、家族と友だちとで、この話をいろいろしよるんよね。ある先生が、これは聞いた。差別をうけている人がもう差別はなくなったというまで聞いは続くというたけど、けんかはあかん。けんかしてこの人間はもうあかと切り捨てるのではなく、気長にわかってもらえるまで話し合っていかなとあかんと思う。くじけそうになったら、こうやって一緒にがんばってきている友だちがいるんよみんなには。なあ、他にありませんか。

TH(男) 僕は姉が高校へ行っているんですが、同和問題の意見発表会があって、みんなが全然聞いてなくて私、ごっつい腹がたつたと言っていました。姉は、この問題に対して、自分はなくしていきたいと思っているんです。姉の同級生が涙ボロボロになりながら自分のこと言よるんです。姉もそれで涙が出てきたそうです。それを男子がみよって、お前、なんしに泣きょんな、アホとちがうかと言われて、姉はごっつい腹たつてその子をたたいたと言っています。僕はそれを聞いて姉にたたいて暴力して差別はなくならんと言ったんです。でも姉は腹がたつと言っています。僕も地区の子だし、学習会にも行っているし、姉の気持ちよくわかるんです。でも、このごろ、わからん子には、たとえたいてもわかってもらわんといかんと思うんです。自分が相手に一生懸命言っ言っして、相手の方がもう聞きたくないわーと言うと僕の性格では手が出てしまうんです。

T5 今、THが、力で相手をおさえると言ったけど、力というか暴力は差別をもっと大きく深くしてしまふけどそれでもいいんですか。

TH(男) 差別は大きくなるかもしれんけど、自分が納得したらそれでいい。

T6 みんなは、THの意見をどう思うか。

TK(男) 江戸時代からはじまって、今まで差別が続いてきた中で、部落の人に対して暴力があるとか、ことばづかいが悪いとか言われているのに、自分だけの納得だけで暴力をふるったとしたら、そこから差別が大きいくひろがって防ぎようがなくなっていく。だからがまんして、その人がわかるまで説得していく以外にないと思う。

KS(女) たたく気持ちはわかります。私もいつも手がでるし、この問題で話してもわからん人にたたいてもいいかといわれたらあかとわかるけど、そこまで言うてしんどいわと言われたら理性とかで止められんと思う。手がでる。

AE(女) 私はKSさんと一緒にごっつい腹がたってきたら相手に手をだすタイプです。言ってもわかってくれなかったら、ただでさえ、言うだけでわかってもらえんけん腹がたっているのに、納得させよ

うと思って言葉の限り言ってもほんなんしんどい、アホとちがうかといわれたら手をだしてしまいます。でもTKが言ったようにそこから差別がひろがっていくし、やっぱり、ここで手をだしてもいいかと考える冷静さもいると思います。

TN(男) 理性がなくなってなぐってしまったらその人は差別意識をもっと強くするかもしれないし、なぐることによってあきらめてしまうこともよくないと思う。たとえ理性がなくなって、もしなぐってしまったとしても、その後でその人と差別についての話をつづけていくという粘り強さがあると思う。この人はもうあかとあきらめたまま、ほったままにしたら、また、その人は差別をしていくだろうし、差別をした人が一人でもおらんようになるまで話し続けていくことだと思う。

JH(男) 差別をする人に手をだすという気持ちは大切だと思うけど、それで手を出したら差別に負けることになる。THは手を出すのはえーと思っているけど、もし、口でうまいこと言えんのだったら、そのために学習会もあるし、支えてくれる仲間もおるし、毎日、そのために勉強しよるんだということをおれたらあかんと思う。

MM(女) なぐってしまったらそれでダメになるけど、暴力も差別に対する一つの訴えだと思うんです。けんかになっても訴えていかんとあかんと思います。相手の身体に傷ができて、それでわかってくれるかもしれません。私もすぐ手がでる方だしTHの気持ちわかります。

YK(男) THは自分は納得したらそれでいいと言っていたけどどういう問題にしろ両方が満足せんなら解決はないと思うし、自分だけが納得しても相手が納得しなかったらみんなが言っているように差別がひろがっていく。なぐったらその時点で終わりにするし、がまんしきれんようになるかもしれないけど、粘りよく話し合う以外にないと思う。

T6 みんながいろいろ言ってくれたけどTHどう思うで。

TH(男) なぐったら、そこで差別が大きくなるということはわかるけど、今の僕は手がでるかもしれないし、これからもっともっと学習していった深めていった相手を説得していきたい。けど、今は、手をだしてしまいそうです。

T7 人間は動物とちがうんよ。わかりあえると思う。とことんやっていけるんよ。

TH(男) たしかに、差別は人間がつくったものだし、人間がなくしていかなんたらあかんと思います。でも、今のぼくの素直な気持ちなんです。

T8 先生は、力で相手をおさえるのは、人間を尊敬しとらん生き方だし、否定します。途中でなげだしたらあかん、JHが言った。学習会は何のためにあるのか。ええ点とってええ学校へいくためのもんでない。THが手をだしたい。そう思った時、学習会でともに差別解消へたちむかった仲間がTHのふりあげた手をおさえ、ぼくらも一緒にはなしをしに行くけん、その手をおろせよって、そんな仲間というんかな関係つくるためにあるんよ。そうとちがうでTH。まだ、納得しとらんようなので、もうすこし後で、みんなで話し合おうな。さて、他に意見のある人いませんか。

KK(女) 宣言が教えてくれたのは勇気だと思う。間違っていることを間違っているといえる勇気だと思う。世の中で間違っていることを間違っていると言えない世の中ではやっていけないと思います。だから、今私たちが間違っていると堂々と言える平和な平等の世の中にしていかなければいけないで

す。

AK(女) 私は自分は部落の人を差別はしていないと思っていたけど、やっぱり心の奥では、自分は部落に生まれなくてよかったと思ったことがあります。この水平社宣言を勉強して、自分の考えは完全に間違っていたんだと思います。

YK(男) この水平社宣言をならうまでは、自分の心の中で、この問題にはかかわりたくないという考えがあって、どうしても逃げよう逃げようとして、さわらぬ神にたたりなしでないけど、自分がかわらんなら、わざわざはかかってこんと思っていました。でも、これを読んでいって、今自分が逃げることは、この宣言作ってきた人たちがみたら、すごく恥ずかしいというか、なさけなくなって、やっぱりもう一度、差別にむかっていこうと思いました。

TW(女) 今までなら、かわいそうという言葉はいい言葉と思っていました。いつも道德の感想は、〇〇さんはかわいそうだと思いましたといっていました。この水平社宣言を勉強して同情は人間をバカにしているということを教えてくれました。だから、これからは同情じゃなくて本音や本心を言いたいです。

T₉ 他にありませんか。

MH(男) 水平社宣言は、人間の団結することの強さや人間は尊敬しあっていくものだということを教えてくれたように思う。ぼくは、同情はいいことだと思っていたけど、他の人の意見を聞いていると、同情はされたくないというのがほとんどだった。同情は、相手の人と同じ立場にたてていないというのがわかった。

T₁₀ 昨年の2Bの汚染一揆にはじまって、そして2年間体育館で185人全員が部落問題学習をしてきた。暑くてもう、座っているだけでこしかけがベチョベチョになって、聞いてきて、下敷であおぎとらてたまらなくなった時もあった。そんな中、してきたこの学習はみんなにとっていったい何だったんだろうか。そして、この問題とかかわってどう生きていくのか、そういう思いを発表して下さい。

KK(女) 今までの全体学習は私にとっては一つの団結だと思います。私は今まで部落出身というのを隠してきました。でも今はちがいます。でも、私が部落出身ですといっても問題は解決しないと思います。差別をしている人に言うことによってかえていきたいです。

YK(男) 全体学習をやる前は周りの子が信じれんとか自分一人という考えがあったけど、全体学習を通してみんなの本音の部分の話し合いをきいて、やっぱり自分が困った時にもたくさんの支えてくれる人がいることがわかって自分一人ではないと思った。だから自分もみんなの思いに少しでも応えられるようにがんばっていきたい。

SY(男) 2年間の体育館の授業で生命の大切さと勇気団結それぞれの人の考えなど多くのことを学んだ。今のねがいみんなでしたという誇りをもって僕は差別と闘っていけると思う。今、もやしている炎をたやさず燃やしつづけて光と熱がすべての人にそそがれる日をつくっていききたいと思う。

RM(女) 2年間の勉強の中で私の部落問題への考え方は変わりました。最初こんなするからひどくなっていくんだと思っていました。でもそんな心をもっているから差別がひとつもなくならないということに気づきました。みんなと学習していく中で教えてもらったことはたくさんあります。絶対に

そのことは忘れません。私は、自分の心の中にまだ差別心があります。わかっていながらなかなか直すことができないのがやしいです。これからどんな状況になってもこのみんなと勉強した部落問題学習をバネにしてがんばっていきたいです。

TS(女) 差別はもうないと思っていたら自分のそのものが差別のかたまりでした。それをみんなやいろんな資料が教えてくれました。今はその差別心をなくすことをがんばっていきたい。そして差別をしている人に本当のことを言っていきたい。そのためには、私は、まだまだみんなに支えてもらわなければならないし、苦しい時はみんなと一緒に勉強したことを思い出していきたいと思います。

KS(女) 友だちとか信じきってもどうせ裏切られるけんそなん最初から最後まで信じるもんでないとおもっていた。ほなけんど、この学習しよる時は友だちっていいな—とおもうて、終わって、何かこいつら信じれんとおもうたりして。でも、やっぱり信じていかんとあかと弟に言われて、姉ちゃんのにそんな考えしかできんのかといわれて、弟に負けたと思った。友だちも私のこと信じてくれてるのに、ここで私が信じとらんという怒るだろうなと思う。

KI(女) 今までの体育館の授業は私を大きくかえてくれました。はじめのうちは、こんなんやってもしょうがない、しんどいと思っていました。私は部落出身です—というのをきいてかえて意識してしまいました。でも、とことんとりくんで涙を流す人をみて、頭の中が混乱してきました。そして真剣にとり組むようになってきたし、だから、今は差別している人にちゃんとと言えるし、自分は何か完全でないけど大きくなったように思います。

SS(男) 2年間同和問題学習を続けてきて、はなしを深めていく中でぼくは団結をしりました。みんなが団結したからこの学習がやってこれたんだと思います。一人の力は弱いけど10人、20人そして3年生185人と大勢の力ならやっていけると思いました。これから僕はこの同和問題学習をもっと勉強していきたいと思います。

MH(男) 2年間してきたこの学習は、自分にとってもみんなにとっても差別に対して強い心がもてるようになったし、この学習をして、3年生の心が一つになれたことがよかったです。これからは、みんなの思いを大切にがんばっていききたいと思います。

MM(女) 私は、KSに言いたいんです。私は、前に、「私は、部落なんよ」と言ったでしょう。その時、KSは「そなんん気にせられんよ、部落とか関係なしに私の友だちじゃわ」と言って私を勇気づけてくれました。その時のKSのことば、あれは嘘でないと思います。今、KSは、人間なんて信用できんとかいったけど、そんな気持ちはないと思います。

KS(女) 私は二重人格っぽいところあるし、家に帰るとお母さんに友だちや信じれんのよってブツブツいって、学校へいくと友だちなんかがやさしくみえて、いいな—と思ったりして、ようわからん所あるんよ。何たって思春期やし。でも、MMに言ったことは絶対嘘でないし、MMは私の大切な友だちじゃけん、部落とかで泣いてほしくないし、MMはすきやけん、部落とかで泣いてもらいたくない。私は、絶対部落差別は許さんし、友だち、なかつような部落差別はけちゃんけちゃんにしてやりたいし、絶対、勉強してしまくて完全になりたい。

TK(女) 私は、部落の人とかかわられんてお父さんお母さんにいわれて、うちや部落ですと言われて

も親の言うことが強くてあんましかわらん方がいいと思っていました。でもこの学習して、部落なんじよと言われても別にそんなかんまん、といえるようになりました。家で、うちのお父さんが、私が思っていないことまでズバツというし、前までは、いいかせなかったけど今は、いいかせせるようになりました。体育館で185人で勉強できたことがごっつうれしいです。

RH(女) 部落の人が私は部落出身ですとはっきり言えるようになったのも、この全員で2年間学習をしてきて信頼しあえるようになったからだと思います。だから全体学習はみんなに信頼と勇気を与えてくれたと思います。そして、この学習で学んだことをムダにせず、まちがっていることはまちがっているとはっきり言える人間として生きていきたいです。

TU 最後にTHまとめて下さい。

TH(男) みんなが一生懸命言うてくれて、僕もやらなあかんと思って、みんなが泣きながら言うてくれて、ここでみんながシュンとなったら差別解消に一步も前進しないと思います。僕は、一生懸命発表してくれるみんなをすばらしく思います。

